

「市民会議作業部会（ワーキング）」開催報告

矢作川流域圏懇談会「第4回市民企画会議（WG）」が開催される

1. 実施概要

(1)実施概要

○実施日時：平成23年9月28日(水)
18:00～20:30

○開催場所
豊田市職員会館2階和室2・3

○参加者：20名（事務局含む）

(2)内容

【会議議事】

第4回市民企画会議議事

- ①第3回市民企画会議開催報告
- ②第5回勉強会の振り返り
- ③山川海地域の今後の進め方確認
- ④次回市民会議の運営方針
- ⑤地域部会の日程調整
- ⑥次回勉強会の開催内容の確認

2. 主な会議内容

「第4回市民企画会議(WG)」では、主に以下の内容が協議、報告された。

- 勉強会の振り返りでは、参加して良かったという声が多く寄せられた。特に、上流から下流まで矢作川の姿を一通り見学することができたこと、勉強会を通じて、市民同士や行政との連携が少しずつ形になり出したことが良かった。
- 今後の予定として、山の意見交換は10月19日、川の意見交換は10月14日、海の意見交換は10月17日あるいは20日に実施する。
- 第2回市民会議は、山・川・海の3部会合同で開催するものとし、11月26日14:00～開催する。
- 第5回市民企画会議は、11月14日18:00～開催する。
- 第2回地域部会は、来年の1月末を目処に実施を検討する。
- 第6回勉強会は、河川整備計画の勉強をするということで、12月12日18:00～開催する。

3. 議事概要

(1) 開 会

(2) 議題

・ ご意見、提案 ▶ 回答

① 第3回市民企画会議開催報告

豊橋河川事務所の宇野氏より第3回市民企画会議の開催報告を行った。

- ・ 参加者からの質問という写真は、天然アユ感謝祭の報告であり、写真は変えた方がよい（内田）。
 - ▶ 了解した。なお、記載内容については、メールにて配信するので確認してほしい。（事務局）

② 第5回勉強会の振り返り

豊橋河川事務所の宇野氏より第5回勉強会の開催報告及び振り返りアンケートシートの説明を行った。

【開催報告について】

- ・ 資料内容について、アユの提供を矢作川森林塾が行ったことを追加したい。（事務局）
- ・ 川会議の概要説明についても追加してほしい。（裕）

【参加した感想について】

- ・ まずは、関係者及びこれに関わった全ての方にお礼を申し上げたい。この勉強会をやるにあたって、今までバラバラだった方々がきちっと自分の責任を果たしたこと、流域懇談会に対しての自覚と責任が出たことが川部会としては一番嬉しいこと。30歳くらいの方が、川に対して本当に関心を持っていてくれたこと、それを受け継ぐ自分たちが自分の子どもや孫の代までこういう活動を続けていかなければいけないと発言されたことは本当に嬉しかった。内田先生と生徒さんたち、夏丸さんたちが、現場で、ここではこんな魚がいますよ、こんな水が多くてもこんな風にいますよという風に見せて下さったことが非常に感激した。（裕）
- ・ また、山があって海があって、もちろん川があってそして人々の生活があって、それが全部つながっているということを再認識できてとっても良かった。（裕）
- ・ 振り返りアンケートの数字で見る関心を持った取り組みところを見ると、やっぱり関心が高いところは、例えば、家下川のように結果が見えるところに関心があるところづく思った。今後もそういうものを出していけると、なお一層多くの方々に関心が頂けるのではないかと思った。（光岡）
- ・ 家下川という支流の名前をだすと、家下川の問題であるという風に思われてしまうかもしれないが、あくまでも矢作川の一部であると捉えてほしい。矢作川の源流についても根羽のちょろちょろ出ている水ではなく、源流はあちこちいっぱいある。もし一つに決めたいのであれば、生き物は全部海から上がってきたと考えられるから、ひっくり返して河口が源流だと思う。家下川の問題もどこで起こることだし、どこでも展開することはできると思う。ただし、あれだけたくさん魚が見られたのは驚きだった。家下川に魚が多いのは、もともと豊富な場所だったという背景があるが、地元の人は何にも感じてない。新聞にメダカは絶滅危惧種になったって言えば、みんなメダ

- 力はないものだと思うのが現状で、家下川であるような取り組みを行うのは、地元の人達の意識がどう変わっていくのか、ということが一番大きな問題である。(阿部)
- すぐ近くに住んでいる人もこのような活動は知らなかったという話もあった。(事務局)
 - あの状態を見て、いっぱいいるからいいのではと思われるのが一番怖い。実はぎりぎりの環境であり、特にフナとか当たり前の生き物がどんどん居なくなっている。特に最大の問題は、矢作川との合流点をコンクリートで無理やりくっつけてしまったこと。その前は、矢作川と平行した河川敷の中に川があって、大水の時の魚の回避場所や産卵場所になっていたので、すごくもったいない感じがする。(阿部)
 - 矢作川の場合では、鳥の目になって上空から見下ろすと矢作川が小川に見えるくらいの状況で、周りの地形を見ながら何かをやっていくということが、難しいけれども必要ではないかと思う。(阿部)
 - あそこまで整備するのにどのくらい時間がかかったのか。(事務局)
 - ▶ 県に階段を造ってもらうのに10年くらいかかった。草を植えるのも、そこそこの時間がかかっている。最初は相手にしてくれなかったが、たまたま心が通じた人がいたのでできた。(阿部)
 - 家下川の合流点は、国交省の取り付け部分の問題については、矢作川の関係者が集まった話し合いの場を持つ中でやっていけば、これがポイントの解決になり、支川の解決になり、それがまた他への波及効果を及ぼすと思う。そういう面では、川の中で、そういう組織的なものを作り上げていく方向で解決できないだろうかと考えている。(事務局)
 - 家下川みたいに、できることからまず実行していこうということがいいと思う。川部会としても、大きく川に対する共通項を持つことと、できることはすぐ歩みだそうという2つの大きな路線でこれから進んでいこうと思っている。(裕)
 - 小さな突破口から大きな可能性がほのかに見えたという感じは、多くの参加者によって共通の認識になったのでないかと感じた。(黒田)
 - 支流はけっして個別なものではなく、本流の一部という風に考えてまず歩めるところから、とにかく実行していこうというのが川部会としては一番大切。それと同時にもっと大きな大前提もやっていきたい。(裕)
 - 我々の市民生活を取り巻いている水環境ということ考えた時には、水田という存在の大きさが再認識されるきっかけになったと感じた。(黒田)
 - とてもいいものを見せて頂いた。私は、砂浜とかに繁殖するシロチドリとかをもっと戻したいと思っている。私は、乙川の方の第2トンネルを造っているところの委員をしているが、なるべく水を切らせないように、生き物の線を消さないようにと努力している。家下川の場合は、途中で切れる落差などはあるのか。(高橋)
 - ▶ 矢作川の河床が下がったので、段差はあるが、春の大水の時には完全につながるような状況。(阿部)
 - 鹿乗川についても子どもの遊び場とか、水のあるようなところとか、色んなことができたらもっと面白いかなとも思う。検討にあたっては、色々みんなで相談しながら一

番いいのはなんなんだと考えていくのがいいと思う。(高橋)

- 油ヶ淵はあんまり評判よくなかったが、油ヶ淵はミニ三河湾だと思うので、エクマンバージで底泥をとって臭いを嗅いでもらうなどのパフォーマンスはあってもよかったかなと思う。そういう意味の見える化っていうか、五感に訴えるものがないとダメだと感じた。あそこの周辺にも水田があるが、田んぼだけしか見ていないので大水の時に泥が流れても農家の人たちは別に気にもしない。ただし、年1回、安城と碧南と高浜と西尾が持ち回りで清掃活動をしているが、年1回のイベントになってしまっていて、油ヶ淵と水田のつながりはまったく分断されている。それをヘドロという形で皆さんの嗅覚に訴えればよかった。(井上)
- 勉強会には、それなりの可視化するという工夫は必要だったと思う。油ヶ淵では、ドブの臭いを嗅ぎたかった。これが三河湾一帯の干潟の一般的な姿の模型なんだということがもっと分かるとよかった。(黒田)
- 昭和40年くらいにメッキの薬品の製造のメーカーに勤めていた。その当時はヘドロが臭くて、碧南病院行っても臭かった。それに比べ、現在では、すごく良くなったと思う。(松井)
- 2日間で特に感じたのは、少ない水をほんとに色んな形で使っているんだということ。色んな人が色んな所で使っている。ビデオにもあったが、とにかく汚してはならないということ。汚れてないということを実感するのは、魚の豊富さであり、鳥がいっぱいいたり、色んな生き物がそこにいるというのを、見るのが一つの目安というか、よく分かる指標だと思う。これから取り組んでいく中で、それを具体化するような手立てが出せるといいと思う。さらに、多くの方に見えるような形でPRできるとさらに多くの方が関心を持って、みんなで矢作川の水のきれいさを守っていこうという動きができるといいと思う。(光岡)
- 源流から最下流まで見られたことは、素晴らしいことだったと思う。ただ、一番源流があんな形で整備されているとは予想外だった。あのような観光地的なやり方されると、なんともげっそりする。もう一つの驚きは、わずかな落差であれだけの水量があるなんてまた素晴らしいことだなんて実感した。それから、途中での生き物の豊富さ、特に農業排水路にあれだけの魚がたくさんいることを間近で見られたというのが感動だった(稲垣)
- 実は今日、寸又峡の一番上の夢の架け橋まで行ってきたが、そこから下をみてもどろどろになっている。大井川では、細かい支流の谷はかなりきれいな水が出ているが夢の架け橋までくるとまっ茶色になっている。矢作川とは全然違うと思うが、何が違うのか分かる人がいたら説明して頂きたい。(高橋)
 - それは地質条件の違い。私は大井川を調査したことがありますが、あそこは中央構造線が通っていて、その構造線沿いの地質というのは、粘土質のものが交互層で入っているようなずたずたの岩石で、ものすごいシルトが出るタイプの川。とにかく土砂生産が多いということでは日本有数の川だと思う。(蔵治)
- 想像していた以上に楽しくて、参加者もみんなわくわくはしゃいでいる感じが非常に伝わってきて、ツアー中も懇親会も大変いい雰囲気だったと思った。行程の中でちょ

っと見てもらいたかった、残念だったなと思ったのは河畔林。河畔林というのは、本来の矢作川にはたぶん少なかったと思うが、おそらくダムがだんだん増えてきたことで、特に矢作ダムの登場で非常に流路が安定して、同じところを川の水が流れて自然に堆積が進んだことで、樹林化が著しく進んだ。竹林も増えたとし、広葉樹の高木の林も増えてきた。これは本来、矢作川にはなかったタイプの林であるが、生き物の住める貴重な環境を作っているということで、せめて古川水辺公園の対岸の河畔林が見られると、また矢作川の違った一面を見られたかなと思った。(洲崎)

- ▶ ダムができたことで攪拌が一定に抑えているというのは事実。あとは堤防もしっかりして、そこに砂が溜まって、土が溜まったりして河畔林が増えるという状況である。川ごとに性格は変わるので、矢作川の場合はどうしたらいいのかというのを、みなさんと議論していくことが重要ではないかと思う。(事務局)
- 中流から下流までは、これまでボートで川くだりはしたことはあるが、バスに乗っている人と一緒にいったことで、今まで知らなかったことが勉強できたのが良かったと思う。上流の方も川の中を下るようなことを個人的にはカメラとかでやってみたい。(山本)
 - ▶ 川の中から川を見るのと、川のそばから川を見るのは全く違うので、ほとんど目の高さのところには水面があるというのは、全く違うことなのでいつの日かカメラで下るといって皆さんと共にやってみたいと思う。(黒田)
- 今回は二日連続の大人の遠足ということで、なかなか楽しかったというのが、大方の感想ではないか。これをどう発展させるかが、次の大きな課題で、このままで放っておいたらもったいないぞという感じがしている。(黒田)
- 私も3回連続で参加したが、3回をセットで全部参加すると、山・川・海という観点から言うとかかなり網羅したかなと思う。見てないものがあると言えば、上水道と工業用水。これは矢作ダムを造った大きな理由だと思うが、この2つについてはまだ触れていない。今回、明治用水さんが自分たちは水源林のことを非常に昔から大事にしていることを、きちっと言って下さったのは非常に感動的で、水を使うものが、いかに水の源をいかに大事にしているかということはずごく印象に残った。それと車内で矢水協のビデオを見たことで非常に理解が深まったと思う。あと今回参加した豊田市役所の原田さんと岡崎市役所の蜂巢賀さんの2人がそれぞれの市役所における山・川・海流域圏一体化のキーパーソンであると思う。あの2人が参加してきちっと施策を説明して、かつそれを市役所の中でも大事にしていきたいと表明されたというのを、我々は大事にしなければいけないと感じた。一方、残念だったのは愛知県河川課の魚道に関する説明があったが、水地盤環境課が行っているあいち水循環再生基本構想の西三河地域の施策の説明がなかったのが残念だった。あいち水循環再生基本構想の西三河地域の施策と、我々が今後どう繋がっていきけるかということが課題として残っているという印象があった。ゆくゆくは愛知県といかに連携できるかということが非常に大事になってくるような気がする。(蔵治)
- 内田先生もいっていた、愛知県をどう引き込むかというのはどうなっているのか。(洲崎)

- ▶ 県の OB である本守氏に打診中であり、個人として入るか、会長を務めている愛知川の会として入るか、検討中である。(事務局)
- ・ 海についてもキーパーソンは 2 人いるが、もう一人西尾市の小笠原氏がいる。海をやるとなると西尾市を外せないと思うので、彼とも連携をとっていきたい。(高橋)

③ 山川海地域の今後の進め方確認

- ・ 山地域では、10 月 19 日 18 時～有志の会議を行う。その際は、事務局は入らない形で行うものとしたい。(洲崎)
- ・ 川地域では、10 月 11～14 日で川の意見交換をセットできるかどうか考えたい。(事務局)
 - ▶ 次回の川の意見交換会では具体的になにをするかを考えたい。(事務局)
 - ▶ 流域全体の話と地先の話の両輪で考えたい。また、見える化ができるところから行っていきたい。(裕)
- ・ 海地域では、仲間づくりからまず始めようということで、10 月 17 日か 20 日くらいで意見交換会を予定している。(事務局)
 - ▶ その際には、西尾市の小笠原さんにも声をかけたい。(井上)
 - ▶ 市民活動と漁協とは関わりがちがうので、まず漁協との関係づくりを考えていきたい。また、市民としての活動をなんかしたいということで、干潟再生とか河川下流部とか、次回具体化をどうしていくかを考えいきたい。(事務局)

④ 次回市民会議の運営方針

- ・ 事務局では、年内には市民会議をしたいと考えている。開催に向けて、どのような会議ができるのか。獲得目標は何か。どこまでできればいいのかについて、議論を深めていきたい。(黒田)
 - ▶ 事務局としては、地域部会のことを考えると市民会議は、11 月末くらいでなんとかできないかと考えている。(事務局)
 - ▶ 昨年から様々な活動を行ってきたが、一部の行政機関にしか情報が行き渡っていない。そのため、今まで市民がここまで頑張ってきたことを共有したい。地域部会は、1 月末までに開催するものし、市町村がどのように関わられるのか考える場にしたい。市民会議については、これまで参加されていない人に対して、3 部会でこのように進めていることを理解してもらい、それをどのように展開するかを意見交換をしたい。(事務局)
- ・ 少し何かが見えかけているという段階で開く市民会議なので、まとまったものをきちんと仕上げていくことにはならないと思うが、少なくとも山、川、海について市民が何を問題視しているのかを、参加する人たちに分かって頂けるようにしたい。また、結論を急がず、各部会で議論をできるだけ尽くそうとしていることを多くの市民の人たちに理解してもらい、それに加わろうという人たちが、たくさん増えていくことが、次回市民会議の大きな狙いという風に思っている。日程については、11 月中下旬の休日ということでもいいのか。(黒田)

- ・ 事務局としては、11月19日、20日、あるいは26日、27日かどうか。(事務局)
 - 11月27日は「川会議」で海のごみ拾いがあるので参加できない。(裕)
 - 11月20日は稲垣さんと私は参加できない。(洲崎)
- ・ それでは、26日14時から3時間開催したいと思います。(事務局)
- ・ これまでの市民会議は部会別になっていたが、一緒にしたらどうか。今まで実施した勉強会の中で、どんなことが話されて、みんなでどんなことを体感したかというのを、全員で共有することが次の市民会議では大事なのかなと思ったので。また、部会別に分かれても、今まで数人とかになりと意味があるかが疑問。(洲崎)
 - 海地域が少ないことは認識している。少ない部会については、今後の方向についてどうやってやろう議論をしてもいいと思う。(事務局)
- ・ 少なくとも、3時間の内で、全員で今までの勉強会を共有する時間は欲しいと思う。(洲崎)
 - 共有する時間がメインでいいと思う。部会別に分かれて最大でも1時間程度を考えており、できれば方向性についても色々な意見を出してもらい、それを受けて全体で部会の発表をするというのはどうか。(事務局)
- ・ 自分たちがやってきたことは分かっても、やってきた意味を共有するっていうことは必要だと思う。今まで全部に参加をしていない人たちに対して、共有できるような努力をすることが出発点になるような気がする。そうでないと、課題こうやってまとめてみましたって言ったところで、俺知らないよ、私知りません、みたいなことになりかねない。(黒田)
- ・ 最初に部会をするのではなく、全体の流れを先にするというでどうか。(裕)
- ・ 今後、何をやるのかというアクションの話と何を私たち見てきて認識したかという話は、別々でいいと思う。例えば最初にみんなで何を感じたのか思ったのかをみんな共有してすればいいと思う。一方、何をやっていくかという話は、報告的に全体の中でもいいかもしれないし、それぞれの部会で集まってもいいかもしれない。しかし、実態の所を考えると、川の人達が圧倒的に多い状況を考えると、報告的にやってもいい気がする。(鷺見)
- ・ せっかくみんなが集まっている状況なので、今こういうベクトルに向いているというところをみんなに知ってもらおうということはまず大事。また、山川海でつながっているかということも含めて参加者がどう思ったかを共有することの方がやっぱり大事だと思う。例えば、川の方は海や山をどう見たのかとか、そういうことを聞く場面もあるといいかなと思う。(鷺見)
- ・ 今度の市民会議は何かを決定するわけではなく、市民の目指している姿、あるいはつくろうとしている姿勢をみなさんにわかって、具体的な方向性を決めることではないか。また、他の部会の人達が他の部会の課題・問題点について発言をしたり一緒に考えたりする場があるというのはとても大切なことだと思う。(裕)
- ・ まだ、山から見れば海や川の問題はアンタッチャブルみたいなところが若干あったりして、なかなか手を挙げて発言をするというのにはなかなかになってない。一緒に考える一緒に模索するというのはいいいかなと気がする。(黒田)

- ・話が前後するが、10月中旬から下旬にかけて三部会がそれぞれ集まるので、その後でもう一回市民企画会議を開くことになると思うがいつごろがいいか。(黒田)
- ・11月14日の18時からでご都合の悪い方はいるか。いなければ、第5回企画調整会議を11月14日で予定したい。(事務局)

⑤ 地域部会の日程調整

- ・前回地域部会は、ウィークデイの昼間に開催したいが今回はどうか。(黒田)
 - ▶ 時期としては、1月末には実施したい。実施にあたっては、午後を基本に考え、11月には、関係者に連絡を行っていききたい。(事務局)

⑥ 次回勉強会の開催内容の確認

- ・海でアサリが死んだということに対して、市民ができることはないが、漁協の最大の関心事であると思う。次回の勉強会では、船に乗って海から海岸を見るのもいいのではないか。(井上)
 - ▶ 海で起きていることを勉強したらどうかということか。(事務局)
- ・船に乗れるということであれば参加したくなるのではないか。船としては、三河港湾、県の水産試験場のものが借りられるのではないか。(井上)
 - ▶ 船に乗れるのであれば参加したい。(蔵治)
- ・冬は海が荒れるので、11月末が実施の限界だと思う。ただし、それまでには活動が詰まっているので、春に実施した方がいいのではないか。(事務局)
- ・それでは、船の話は、今後検討するというものでいいか。(黒田)
 - ▶ よい。
- ・次回の勉強会は、事務局が提案したとおり、地域部会に向けて、河川整備計画を一度勉強するというのもいいのではないか。実施にあたっては、予習をした方がよいと思うので事前に資料を送ってほしい。(黒田)
- ・実施時期は、いつごろがいいか。(事務局)
 - ▶ 12月12日の週がいい。(光岡)
 - ▶ 平日の夜で18~20時であれば、14日15日以外でお願いしたい。(蔵治)
 - ▶ 12日がいいのではないか。(井上)
 - ▶ できれば、終わった後に忘年会をしたらいいと思う。(洲崎)
- ・それでは、12月12日18時からで予定する。(事務局)

以上

矢作川流域圏懇談会 第4回市民企画会議(WG) 9月28日開催 出席者名簿

	団体名	役 職	氏 名	所属部会
個人	豊田市在住		丹羽 八十	山・川
市民団体	BIO de BIO	代表理事	黒田 武儀	山
	伊勢・三河湾流域ネットワーク	協同代表世話人	井上 祥一郎	山・川・海
	伊勢・三河湾流域ネットワーク	世話人	松井 賢子	山・川・海
	豊田市自然愛護協会	会長	光岡 金光	川
	西三河野鳥の会	事務局	高橋 伸夫	山・川・海
	矢作川「川会議」	代表	裕 さくら	山・川
	矢作川学校	事務局(矢作川研究所事務局長)	内田 良平	川
	矢作川水族館	館長	阿部 夏丸	川
	矢作川水系森林ボランティア協議会	副代表	稲垣 久義	山・川
	矢作川天然アユ調査会	会長(矢作川研究所副所長)	宮田 昌和	川・海
学識 経験者	東京大学生態水文学研究所	准教授	蔵治 光一郎	山
	大同大学工学部都市環境デザイン学科	准教授	鷺見 哲也	川
	豊田市矢作川研究所	主任研究員	洲崎 燈子	山
	豊田市矢作川研究所	主任研究員	山本 敏哉	川
事務局	国土交通省 中部地方整備局 豊橋河川事務所	副所長	倉島 佐貴夫	
	国土交通省 中部地方整備局 豊橋河川事務所	副所長	新高 庸介	
	国土交通省 中部地方整備局 豊橋河川事務所	事業対策官	溝口 敏明	
	国土交通省 中部地方整備局 豊橋河川事務所	調査課専門職	宇野 利幸	
	矢作ダム管理所	管理係長	宮本 幸典	
事務局補佐	建設技術研究所		土屋 信夫	